



中学校5名、その他一般の方が10名、計47名という状況です。

また、これまでに保育所の閉所が3回、延べ12日間、小学校の学年閉鎖が2回、延べ14日間、学校閉鎖が5回、延べ29日間、中学校の学年閉鎖が1回、7日間という状況です。

一方、優先接種対象者のワクチンの早期接種が急がれており、国保診療所においても11月24日からワクチン接種を実施しておりますが、12月4日現在の予約受付状況は、254名で、基礎疾患を有する方が146名、幼児28名、小学校1～3年生14名、1歳未満児等の保護者1名、小学校4～6年生11名、中学生5名、高校生4名、高齢者45名です。医療機関別では、国保診療所が184名で、町外のかかりつけ医療機関では、11医療機関70名です。

### 一般廃棄物の処理状況について

「ゴミの量、ゴミ袋収入の減速」  
本年10月末現在の一般廃棄物の総排出量は、520トン（前年同期比14トン、3%減）、資源ごみについては、101トン（前

年同期比21トン、17%減）という状況にあります。

また、町の「ごみ処理手数料（ゴミ袋）等収入済額は、当初予算額771万6千円に対し、460万1千円（前年同期比19万6千円、4%減）という状況にあります。ごみの有料化が、平成19年4月から始まり2年半が経過し、着実に減量化が進んでいる状況にあります。

町民の皆さんのごみの減量化や資源化に対する意識の向上や全町的な観光ごみの持ち帰り運動の成果によるものであり、町民の皆さん並びに町内の関係団体の皆さんのご協力に感謝を申し上げます。

### この冬も除雪サービス事業を実施

町独自の高齢者自立生活支援事業の一環として、平成12年度から実施しております65歳以上の一人暮らしの高齢者及び高齢者夫婦世帯等で、身体の障害や疾病等により、除雪の支援が必要な世帯に対する除雪サービス事業を、本年度も関係団体と連携をとりながら実施します。

## 保育所関係

### 保育所等の運営状況について

「職員の間外私立保育所研修終了」

12月1日現在の入所児童数は、びくに保育所で24名（前年同期比2名増）、みなと保育所では13名（前年同期比5名減）です。

保育の質の向上を目的に初めて実施した、保育士を対象とした職員の町外私立保育所での研修が、11月21日をもって終了しました。

その評価を踏まえて、集合保育のカリキュラムの改善や安全な遊具の活用の見直しなどの検討に取り組み、保育技能の向上と保護者の信頼感と安心感の醸成に努めています。

子育て支援センターの11月末現在の利用者は、延べ416名（前年同期比135名、約24%減）、1日平均3名、子育て相談事業件数は26件（前年同期比38件、約59%減）です。

少子化により、利用者が減少している状況にあります。本の読み聞かせ、図書の出前貸し出し、手作り遊具の指導などの情報提供の充実に取り組んでいます。

## 国保診療所関係

### 外来患者数等の状況について

11月末現在の外来患者数の状況は、延べ8,200人（1日平均50人）で、昨年同期と比較し615人1日平均3人の減（前年度1日平均53人）という状況です。

また、余別、入舸管内からの患者送迎バスの運行は、11月末現在で延べ1,063人（64日間運行で1日平均17人）で、昨年同期とはほぼ同水準で推移しています。

### インフルエンザ予防接種について

「接種日の指定にご協力を」

季節性インフルエンザと新型インフルエンザいずれのワクチンも、予約者分の必要量の確保が全国的に厳しい状況が続いています。

従いまして、季節性インフルエンザワクチンは12月1日で予約を締め切ったほか、新型インフルエンザ接種対象者のワクチンの使用量の効率的な接種の必要性から、国保診療所での接種

日をあらかじめ指定して実施している状況にあります。

接種希望者の皆さんにはご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

## 商工観光課関係

### 町内観光施設の入込状況について

レストハウス「ペニンシュラ」の10月末現在の売上総額は、7,232万円で前年同期比約677万円、8・6%減との報告を受けています。

こうした状況から株ペニンシュラでは、通年滞在型観光の推進を図る観点から、冬期間の営業を続けるべく営業努力を続けてまいりましたが、年間経営収支の均衡維持を確保することの重要性から、10月25日をもってレストラン部門の本年の営業を、また、11月21日で全館を休止し、明年は、4月から営業を開始する予定です。

「水中展望船」は、今シーズンから、北海道中央バス株による定期観光コースとして組み込まれたほか、外国人ツアー客が順

調に推移し、営業日数が前年より20日間減少したものの、延べ利用者数3万993人で、前年比5,278人、約20・5%増、利用料等収入総額約3,567万円、前年比572万円、19・1%増との報告を受けております。

「岬の湯しやこたん」については、11月末現在、入館者数8万7,933人で、前年同期比5,246人、5・6%減、利用料等収入総額では、9,286万円、前年同期比228万円、2・5%増という状況です。

### 岬の湯しやこたんの冬期対策について

― 厳冬の露天風呂を再開 ―  
景気の低迷が続く中で、今後の厳冬期における入浴客の利用増を見込むことは厳しい情勢にあります。

一方、町財政健全化計画における同特別会計の一般会計繰入金が必要額の確保も厳しい状況にありますことから、昨年の冬期対策の検証結果も踏まえて、12月から明年3月までの間、次のような冬期に向けた運営経費の縮減対策を講じることとしました。

- (1) 定休日は、昨年と同じく週2回（水曜日、木曜日）とすること。
- (2) 営業時間は、午前11時から午後8時30分までとし、夏期間より1時間30分、前年冬期間より30分短縮すること。
- (3) 厳冬の露天風呂の開湯を再開すること。

### イベント関係事業について

去る9月18日から23日までの6日間、札幌大通り公園を会場に「オータムフェスト2009」が開催され、当町から、前半の18日から20日までの3日間参加し、また、9月22日から23日の両日、管内の特産品を一同に集めた「後志収穫祭」がウイングベイ小樽で開催され、当町からは積丹観光協会が中心となり、観光PRと特産品の販売を行いました。

冬季の街の活性化を目指し、積丹飲食店組合が主催した「第5回はしご酒大会」が10月16日開催され、町内外から約220名の方々が参加し、それぞれのコースに別れ、はしご酒を楽しみました。

### 観光客の誘致活動について

12月5日には、今年で8年目を迎えた「どっこい積丹・冬の陣」の第一弾「積丹鍋の競演」が、岬の湯しやこたんを会場に開催され、積丹の旬の魚を使った伝統の7種の鍋による「鍋の競演」が開催され、バスツアー客や町内外の多くの温泉利用者が470名が来館し、賑わいました。

今後、第2弾として厳冬期における取り組みが計画されておりますが、町内の商工観光団体が連携して、様々な問題・課題を乗り越えながらその実現に努力を傾注しているこうした地道な取り組みは、今後の観光シーズンの延長化につながるものと期待しています。

ロハスinしりべし推進協議会が主催する後志モニターツアー「どっこい積丹冬の陣」と後志秘湯巡りの旅が、12月3日から5日までの2泊3日の日程で実施されました。

この事業は、後志支庁が事務局となり実施したもので、道内からの参加者4名が後志管内5町村（積丹町、二セコ町、蘭越



町、俱知安町、黒松内町）の秘湯巡りと、後志地域の豊かな自然景観や生態系の保存運動の意義や後志の食などについて認識を深め、広域観光をPRするものです。

## 農林水産課関係

### 農業生産の概況について

―前年比17%減―

当町管内の11月末現在の新たる農業協同組合取扱高は、3億9,000万円（前年比17%減、計画比2%減）と見込まれるとの報告を受けています。

**畑作については、馬鈴薯、カボチャが収量減となったものの生産額では、契約単価の好調から前年並の約7千万円、ミニトマトについては、前年比約7%の収量減でしたが、仁木町トマト生産組合の市場の好評価と積極的な販売戦略に支えられ約3,500万円（前年比5%増）の見込みです。**  
**酪農では、春先の乳価の値上げにより生産額は1億8,900万円（前年比約2・6%増）の見込みです。**

畜産関係では、世界的な経済不況が牛肉等の消費低迷に直結し、市場価格と出荷量の減少により、9,100万円（前年比50%減）の見込みです。

### 水源林分収造林事業について

―コンクリートから森林整備へ―

神岬団地及び婦美団地の下草刈り施業30ha、除伐19・7haの施業は、11月27日に完了しました。

神岬団地及び婦美団地の造林作業道新設・改良等工事総延長7,232mは、9月18日に完了し、現在は婦美団地（六地区）作業道新設工事延長3,350mを12月末の竣工を目指して施工中です。

また、婦美団地（六地区）の保育間伐15haは、間伐対象木の選木を終了し、伐採及び集積を施業中です。

去る10月19日、(株)森林総合研究所主催による「豊かな水を育む森林（水源林の役割）」シンポジウムが札幌市で開催され、昨年11月締結された町有林と国有林が一体となって、今後の森林整備を推進する積丹地域森林整備協定の取り組み事例が紹介されました。

「公共事業の縮減」と「コンクリートから森林へ」という国策の変化を捉えて、町有林という町の資源の産業化や活用のための、森林整備予算の増額確保に努めてまいります。

### 漁業生産の概況について

―前年比29%減―

11月末現在の当町管内の総水揚げ量は2,309トン（前年同期比24%減）、総水揚げ金額は8億7,800万円（前年同期比29%減）で、東しゃこたん漁協全体では、総水揚げ量4,918トン（前年同期比15%減）、総水揚げ金額は19億3,000万円（前年同期比22%減）、という非常に厳しい状況で推移しています。特にイカが39%減、ホッケが65%減、ブリ82%減など水揚げ金額が前年度を大きく下回っています。また、長引く経済不況による魚価と消費需要の低迷等による影響も大きく、今後のホッケ漁、タラ漁等の水揚げの伸びに期待するとともに、厳冬の安全操業の徹底を願っております。

## 漁港・漁場及び海岸整備事業について

国の美国漁港北防波堤改良等事業は、防波堤延長132m及び南防波堤延長10m、美国川河口部の臨港道路整備事業による橋梁（橋台1基、橋脚1基）及び国道取付道暫定工事が、いずれも3月下旬の完了予定で順調に進められています。



▲美国漁港北護岸胸壁嵩上工事

余別漁港は、北外防波堤改良事業の北防波堤延長122m及び物揚場改良事業の物揚場延長50mが施工中で、3月下旬の完成を予定しています。

北海道が事業主体の日司漁港西防波堤改良事業の堤体嵩上げ及び消波工延長24・2mは、年